

NEXT棟概要

所在地：千葉県柏市柏の葉 6-5-1
国立研究開発法人国立がん研究センター東病院内
面積：建築面積 2,360.25㎡
総延床面積 10,558.27㎡
構造：鉄骨造 5階建
開設：平成29年5月8日
施設内容：内視鏡室、内視鏡機器開発室、手術室、手術機器開発室、
病理検査室、ICU：8床、中央材料室、トレーニング
室（手術手技・機器操作等）等



ご寄付のお願い

1. 資金使途

次世代外科・内視鏡治療開発センター（NEXT）に必要な施設整備、医療機器や研究、教育・研修に係る資金

2. ご寄付への感謝

- 国立がん研究センター広報誌「日々歩」へのお名前掲載（ご希望の方のみ）
- 東病院NEXT棟内の寄付者銘板へのお名前掲載（ご希望の方のみ、10万円以上のご寄付が対象）
- 東病院主催イベントのご案内（ご希望の方のみ）

3. 寄付金控除

当センターへのご寄付には、特定公益増進法人への寄付として、所得税・相続税・法人税の税制上の優遇措置があります。詳しくはホームページ（国立がん研究センター>ご寄付のお願い>寄付控除等について）をご覧ください。

4. ご寄付の方法

◆ 書面によるお申込

① 現金の場合

院内にて承りますので、病院スタッフ、東病院1階総合受付カウンター2番「初診受付」、もしくは下記担当者までご連絡いただきますようお願いいたします。
東病院 事務部 寄付担当 TEL：04-7133-1111（内線91460、2343）

② お振込の場合

お振込後、寄付通知書を郵送またはFAX、Eメールのいずれかの方法でお送りください。
寄付通知書は、当院ホームページでダウンロードしていただけます。
<https://www.ncc.go.jp/jp/d004/donation/next/index.html>

三菱UFJ銀行 うみかぜ支店（普）5516500
口座名義：国立研究開発法人国立がん研究センター東病院

◆ WEBサイトによるお申込

クレジットカード決済、インターネットバンキング決済（ペイジー）、振込にてご寄付いただけます。

がん研究センター寄付

検索



5. お問い合わせ

国立がん研究センター東病院 事務部 寄付担当（受付時間 平日9:00 - 16:00）
TEL: 04-7133-1111（内線91460、2343） FAX: 04-7131-9960
〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1 E-mail: kifu@east.ncc.go.jp

当センターの規程によりご寄付をお受けできない場合があります。

○寄付受入規程 第3条第1項（寄付受入の条件）

センターは、寄付をしようとする者が次の各号に掲げる条件を付したときは、寄付を受け入れることができない。

- ① 寄付により取得した財産を無償で寄付者に譲与または貸与すること
- ② 寄付による研究の結果得られた知的財産等を寄付者に譲渡し、または使用させること
- ③ 寄付金品の使用について、寄付者がその会計を検査すること
- ④ 前各号に掲げるもののほか、寄付をしようとする者がセンターに対してその他の反対給付を求めること
- ⑤ 寄付の申込み後に、寄付者の意思により、寄付金等の全部または一部を取り消すことができるもの

NEXT

次世代外科・内視鏡治療開発センター

ご寄付のお願い

既存のがん治療の枠組みを超えた次世代型治療の実現を目指す

国立がん研究センター東病院では、がん患者さんが・最先端の医療機器や医療技術を用いたがん診断・低侵襲治療が提供されることによる次世代型医療を享受できるよう、新たに「次世代外科・内視鏡治療開発センター（NEXT）」を整備いたしました。

近年では、新たな内視鏡診断や外科治療の登場により、さまざまな低侵襲治療が実現されています。この発展の基盤には、様々な理工学の基盤技術が医療現場に応用されてきた背景があり、今後もこのような開発が加速することが予測されます。NEXTでは、

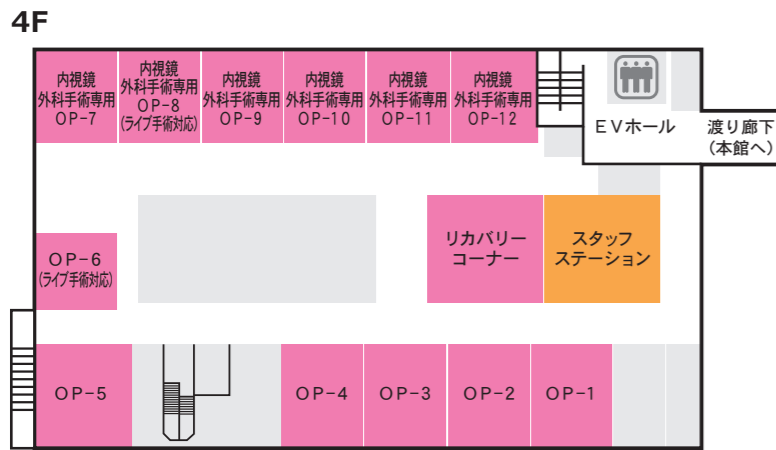
- 1) 現在利用する最先端の医療技術を提供すること
- 2) 次世代に望まれる、臨床ニーズの高い医療機器や技術を開発すること
- 3) 新規開発により生み出された新医療を速やかに臨床現場に届けること
- 4) 次世代のがん医療のリーダーたる医療者を育成すること

を推進してまいります。

これらを実現することにより、がん患者さんに最先端の医療を届けるとともに、世界に確たる日本のがん治療を継続的に発展させる礎として貢献してまいりたいと考えております。

皆様方におかれましては、NEXT（次世代外科・内視鏡治療開発センター）支援プロジェクトとして、上記の趣旨にご賛同いただき、格別のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

国立研究開発法人国立がん研究センター東病院
病院長 大津 敦 / 担当副院長 小西 大



4F 手術室

最先端かつ高度な外科手術をより多くの患者さんに提供するため、手術室はこれまでの8室から12室へ増室しました。特に当院にて力を注いできた内視鏡外科手術に関しては6室の専用室を設け、さらに次世代の内視鏡外科治療開発を目指していきます。またロボット手術をはじめとした様々な機器に対応し得るゆとりのスペースを確保し、今後当院の目指すところである機器開発とリンクさせ、新規医療機器の速やかな臨床応用を可能としています。さらにライブ手術対応の部屋や映像システムの充実により、次世代を担う外科医の育成を図る場を用意しています。



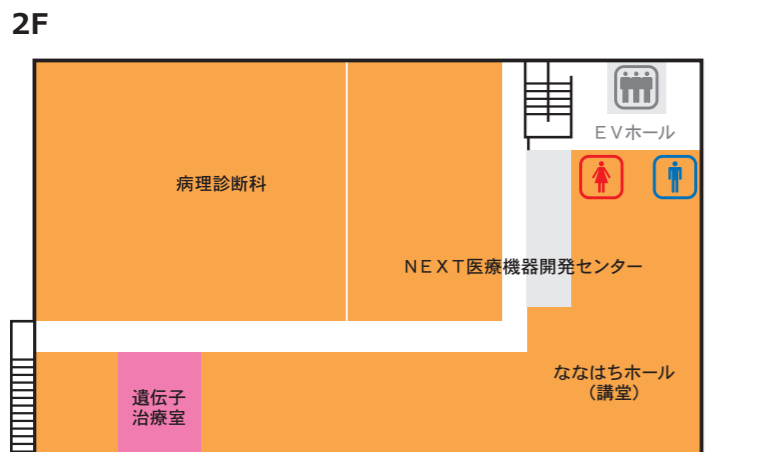
3F ICU, 中央材料室

ICU

集中治療室 (ICU) は、8床からなり、1床当たりの床面積は、日本集中治療医学会が推奨する 20 m²以上を基準に構成されています。この内2床は、独立した換気システムを有し、重症感染症や免疫不全患者にも対応しています。東病院で行われるあらゆる治療をサポートするために、ICUの体制を整えて行きます。

中央材料室

医療現場で使用する器材の点検や洗浄・滅菌を担当します。専門の委託業者が各部署から回収された器材等の作動点検を行い、洗浄や滅菌処理を行っています。日々の確実な器材管理が安全な医療を支え、より高度な医療の提供を可能にしています。



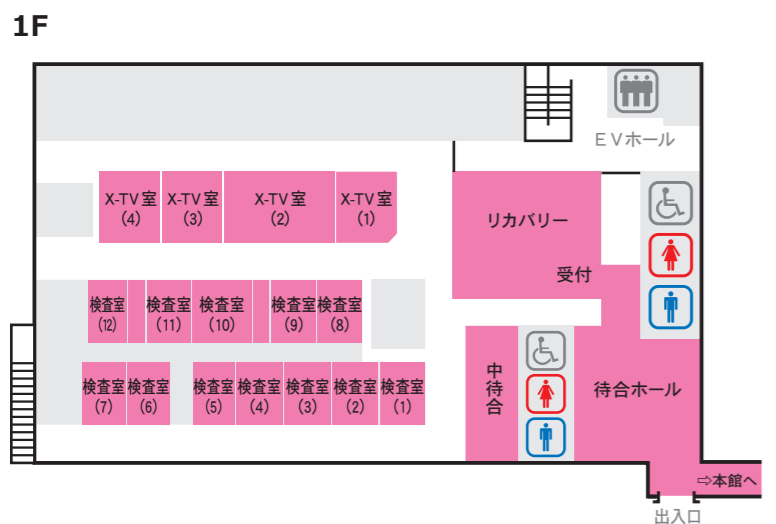
2F 病理診断科, NEXT 医療機器開発センター

病理診断科

病理診断科では顕微鏡を用いて、内視鏡や外科的に切除された組織中のがん細胞の性格や広がり等を判定しています。この知識・技術をもとに、新規内視鏡診断技術や外科治療機器の評価・開発サポートを行っています。またNEXTでは新たに遺伝子検査室を開設し、ゲノム情報に基づく次世代病理診断法の開発も行っていきます。

NEXT 医療機器開発センター

NEXT 医療機器開発センターでは、臨床ニーズに基づいた次世代に望まれる革新的医療機器の開発を行います。国内最先端のインキュベーション施設として、企業やアカデミアと連携し、日本発の医療機器イノベーションを創出・発信するとともに、早期臨床研究体制を整備し、速やかな製品化、臨床現場への導入を目指します。



1F 内視鏡センター

NEXT 内視鏡センターは、床面積 2,341m²に内視鏡検査室7室、治療室3室、透視室4室、開発室2室の計16室、リハビリベッド32床が配備されます。規模は、これまでの内視鏡室と比べ敷地面積が約3倍で国内最大級の内視鏡センターになります。我々は、この新しい内視鏡センターでこれまで同様、患者さん一人一人の内視鏡検査や治療を丁寧に行いながら、より多くの患者さんの内視鏡診療を行いたいと考えております。さらに、次世代を見据えた、より新しく、より体への負担が少ない内視鏡診療の開発にも積極的に取り組んで参ります。

NEXT 医療機器開発センターでの取り組み

手術機器開発室

次世代の外科治療開発に向けて

手術機器開発室では、企業・アカデミアが共同研究開発スペースに入居して、医療従事者とエンジニアらが密接した環境で共同研究を進めております。また、昨年整備された模擬手術室や動物実験棟を活用して開発機器の性能評価や検証実験を行っています。

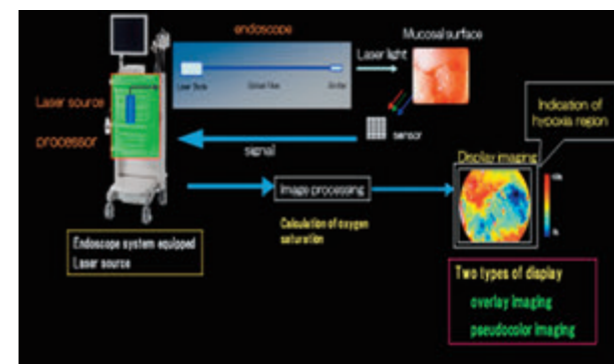
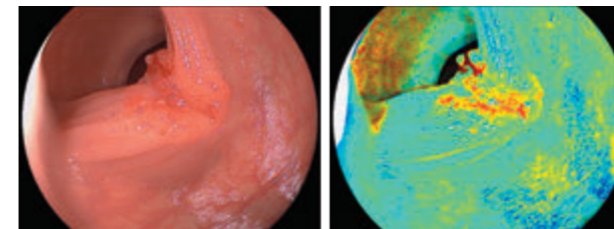
とくに、人工知能 (AI) の医療機器応用に関する研究開発におきましては、国の研究開発事業に採択され、AIの自動認識による内視鏡 (腹腔鏡) 手術の自動化を目指して研究開発に取り組んでいます。また、肛門を温存できる新しい直腸がん手術の研究開発におきましては、企業との共同で開発した臓器モデルを用いて効率的に医療機器開発を進めるとともに、医師への手技の教育を始めています。

今後も、患者さんに優しい新たな手術機器や治療法を臨床現場にいち早く届けられるよう日々取り組んで参りますので、引き続き皆様のご支援のほど何卒宜しくお願いいたします。



直腸癌手術用に開発したモデル評価 (模擬手術室にて)

内視鏡機器開発室



酸素飽和度イメージング：消化管粘膜表面の酸素飽和度を侵襲なく測定する画像技術で、国立がん研究センター東病院と富士フィルム株式会社の共同研究により実現。

内視鏡機器開発における連携の“場”

新しい医療機器を開発するためには、企業技術者だけでなく、医療従事者や工学系研究者、コーディネーターなど、多種多様な人々の連携が不可欠です。医療機器開発室は、企業の医療機器開発における連携の“場”として、大いに活躍しています。

内視鏡機器開発室は医療現場に直結していますので、臨床の実態への理解が深まること、効率的な臨床データの取得が可能であること、医療者との密な議論が行えること、これらを速やかに開発品へフィードバックできること、など開発企業にとって様々な利点を有しています。

現在、医療機器開発室には3つの企業が入居し、画期的な新しい内視鏡や内視鏡治療機器を世に出すべく、日夜、研究開発が進められています。